

**「基礎理論とシステム基盤技術の融合
によるSociety 5.0のための
基盤ソフトウェアの創出」
研究総括説明**

2021年4月

研究総括 岡部 寿男

(京都大学 学術情報メディアセンター・センター長/教授)



科学技術振興機構

現状認識：Society 5.0の実現に向けて

Society 5.0プラットフォーム

○ 総合戦略2015で定めた11システムのうち「高度道路交通システム」「エネルギーバリューチェーンの最適化」「新たなものづくりシステム」をコアシステムとして開発し、他システムと連携協調を図り、新たな価値を創出

○ 基盤技術（AI※、ネットワーク技術、サイバーセキュリティ等）の強化



● Society 5.0 コンセプトはいいが・・・

Society 5.0が目指す社会は、人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すデータ駆動社会である。Wishに加えて、WhatとHowが必要。

● ハードウェアやOSを海外に依存する日本

巨大IT企業に対抗することは困難だが、そのデータ覇権に支配されることなく、自由なデータ流通と個人情報保護を両立する枠組みを実装することが求められている。

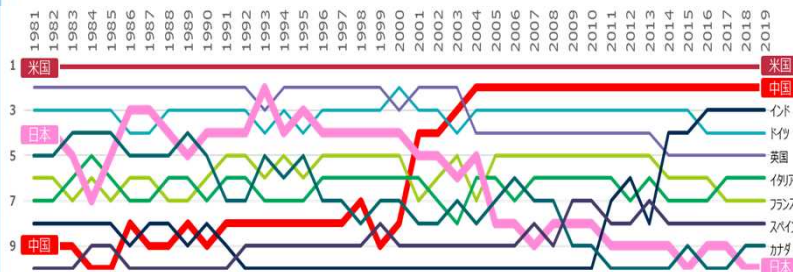
● 情報分野は研究開発でも米国に席卷されている

わが国は、情報システムのオープン化、コモディティ化により、基盤構築に関わる研究開発をする機会を喪失し、この分野の研究者は産学とも応用領域や別の研究領域に移ってしまった。

● GAFAsの競争力の源泉は情報科学技術の基盤

わが国がIoTやロボット活用で強みを伸ばしてゆくためには、そのための情報技術基盤が重要である。

(内閣府公開資料より抜粋)



検索式: ("computer" AND architecture)OR "Operating system"OR "Programming Language"

現状認識：顕在化する脅威

- プラットフォーマーは信頼できない

Googleは、ショッピング情報提供等のサービスにサインアップした何百万ものGmail利用者の受信箱を、何百人ものサービス開発者にスキャンさせつづけている。Facebookはユーザの情報をCambridge Analytica社が利用するのを黙認していた。

- システムも信頼できない

2019年の1年間で公開サーバが攻撃を受けた被害の公表事例が86件のうち約52%が公開サーバにおけるシステムの脆弱性を悪用されており、AWS上で公開されるミドルウェアやOSの脆弱性が深刻である。

- ネットワークも信頼できない

2019年4月のブルームバーグによる、中国政府に情報が流れていることを報告する記事を発端に、欧州や米国でのHuawei製品導入を控える（締め出し）社会問題になっている。通信事業者が運用する公衆通信ネットワークは安全であると思われていた神話が崩壊している。

- ハードウェアすら信頼できない

2018年にマイクロプロセッサ（CPU）の脆弱性問題としてメルトダウンとスペクターが発表された。これは投機的実行を実装したCPUで本来アクセスできないメモリ領域を読み出せてしまう脆弱性でIntelやAMDなど多くのマイクロプロセッサにて発生する可能性がある。

現状認識：デジタル化の推進

- **データ・フリーフロー・ウィズ・トラスト（DFFT）**

デジタル時代の競争力の源泉である「データ」は、特定の国が抱え込むのではなく、プライバシーやセキュリティ・知的財産などの安全を確保した上で、自由に流通することが必要である。[平成31年1月のダボス会議]

- **デジタル革新（DX）、デジタル庁の創設に向けた緊急提言**

新型コロナウイルス感染症対策において、デジタル革新が極めて有効であることが世界各国で実証されている。医療、教育、行政、金融、産業等の各分野において徹底した規制改革とデジタル化・データの共有等を進め、データ駆動社会を構築する。[経団連の提言]

- **Trusted Web推進協議会、ブロックチェーン官民推進協議会**

デジタル市場競争に係る中期展望レポート」（令和2年6月16日デジタル市場競争会議）に基づき、将来の競争構造の変化を睨み、データ・ガバナンスのあり方をテクノロジーで変える分散型の“Trusted Web”の構築を進めるための官民の連携体制として設立する。
[内閣官房]

文部科学省R3年度戦略目標（概要）

Society 5.0時代の安心・安全・信頼を支える基盤ソフトウェア技術

情報基盤分野の研究者の力を結集し、日本発の基盤ソフトウェア技術で安心・安全・信頼を確保

なぜ、基盤ソフトウェア技術？

デジタル化への急速な流れ

- デジタル庁の創設
- コロナ新時代の新たなライフスタイルへの移行
- Society 5.0の早期実現

しかし、我が国は・・・

デジタル化のためのハードウェア、OS、クラウド等の大部分を海外に依存

→ リスク管理も海外依存となってしまっているのか？

そこで、

情報基盤分野の研究力を再強化

- 研究コミュニティの再構築
- 理論とシステムの研究者の連携



日本発の基盤ソフトウェア※で課題解決

- クラウド等の対策のみに頼らず、データや情報システムの安心・安全・信頼を確保

※基盤ソフトウェア＝アプリとクラウド等を繋ぐソフトウェア



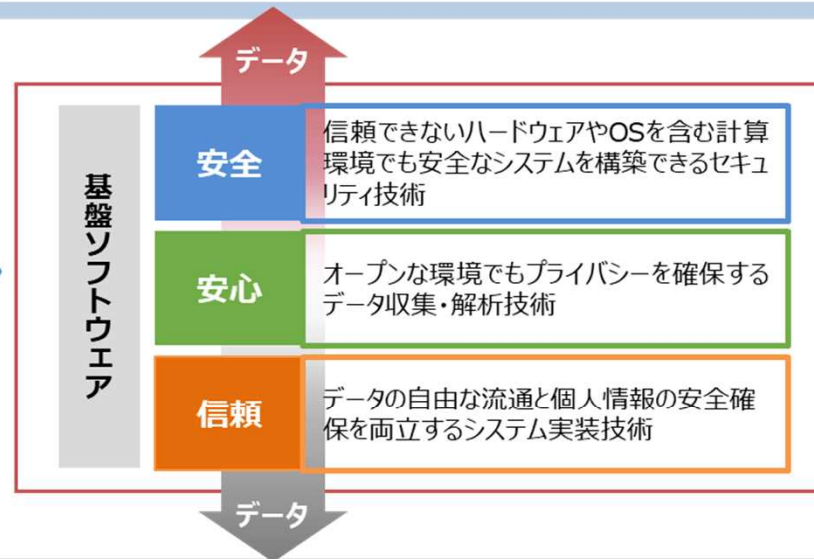
Society 5.0

人々の多様な
幸せの追求

誰もが、安全・安心にデータを活用
多様な情報システムを信頼して利用

将来像

日本発次世代情報
技術が世界で活用
次世代AI、高性能
コンピューティング等



ハードウェア（センサ・デバイス等）・OS・クラウド等の対策のみでは、継続的な安全性・信頼性の確保は困難

CREST【S5基盤ソフト】研究領域（概要）

領域名：基礎理論とシステム基盤技術の融合によるSociety 5.0のための基盤ソフトウェアの創出（略称：S5基盤ソフト）

安心・安全で信頼できる**データ駆動型社会の実現**には、自由なデータ流通と個人情報保護を両立する枠組みを実装することが必要になります。しかも、高度化・複雑化する社会システムの構築においては、「**Security-by-Design**」かつ「**Privacy-by-Design**」な基盤ソフトウェアを、様々な実行環境からなるハイブリッドなハードウェアやOS上で動作させることが求められています。とりわけ、近年報告されているハードウェアやOSの新たな脆弱性は、これらを海外技術に依存している我が国において深刻な課題であり、従来のような個別の対応では**根本的な課題解決が困難**となっています。社会システム全体をby-Designの観点で捉え、**分散協調並列処理やAI等の理論との融合も視野においた革新的な技術の研究開発と、原理的に安心・安全で信頼できる、ブラックボックスを排除し他国に依存しないオープンな基盤ソフトウェアの創出が必須**です。

本研究領域では、基礎理論分野とシステム基盤技術分野を横断的に融合・統合する研究開発の推進により、Society 5.0時代の安心・安全・信頼を支える革新的な基盤ソフトウェアの創出を目指します。

CREST【S5基盤ソフト】の達成目標

基礎理論とシステム基盤技術の融合によるSociety 5.0のための基盤ソフトウェアの創出

安全

信頼できないハードウェアやOSを含む計算環境で安全なシステムを構築可能とするセキュリティ技術

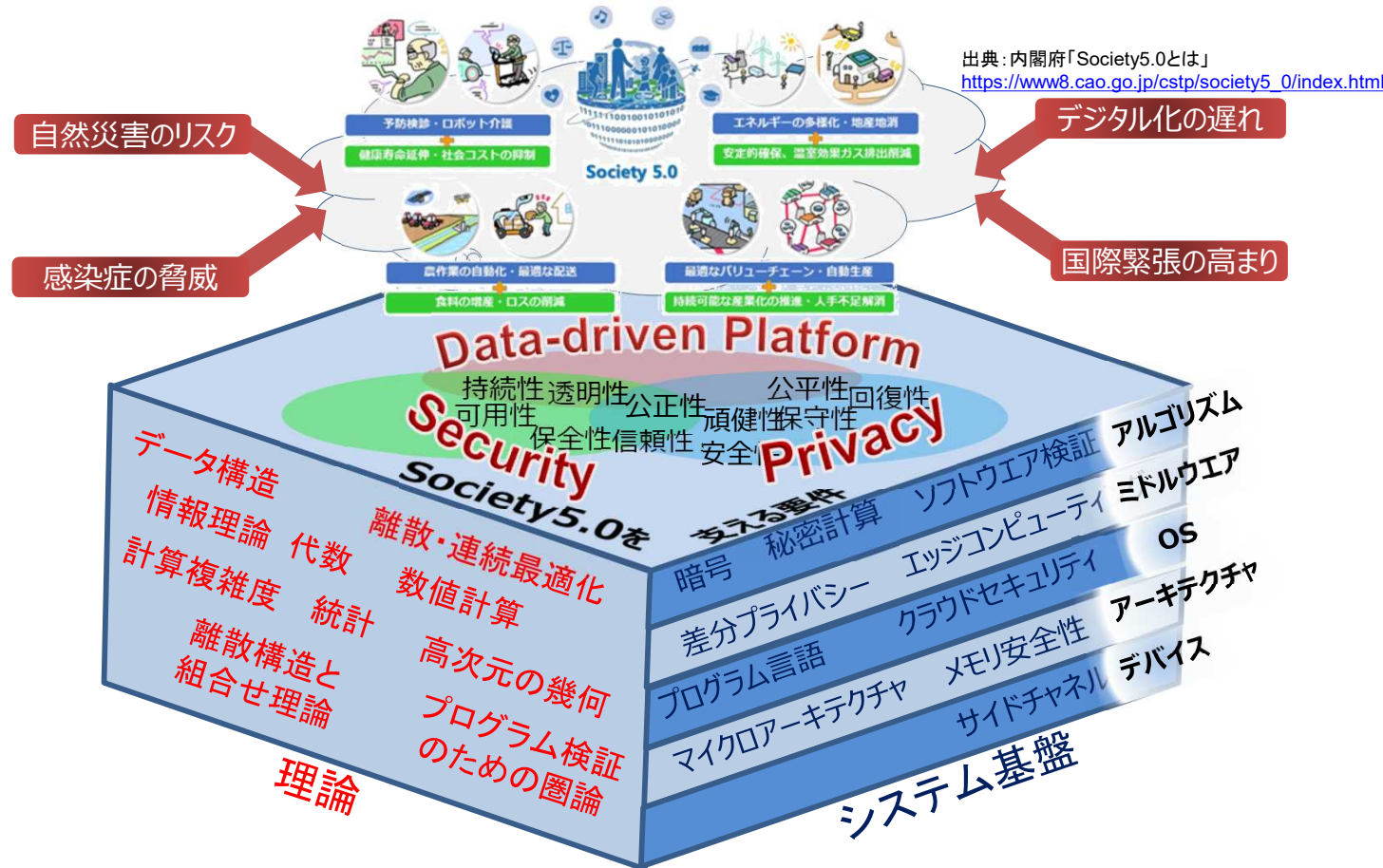
安心

オープンな環境でもプライバシーを確保するデータ収集・解析技術

信頼

データの自由な流通と個人情報情報の安全性確保を両立するシステム実装技術

直面する難局への対応と持続的かつ強靱な社会・経済構造の構築



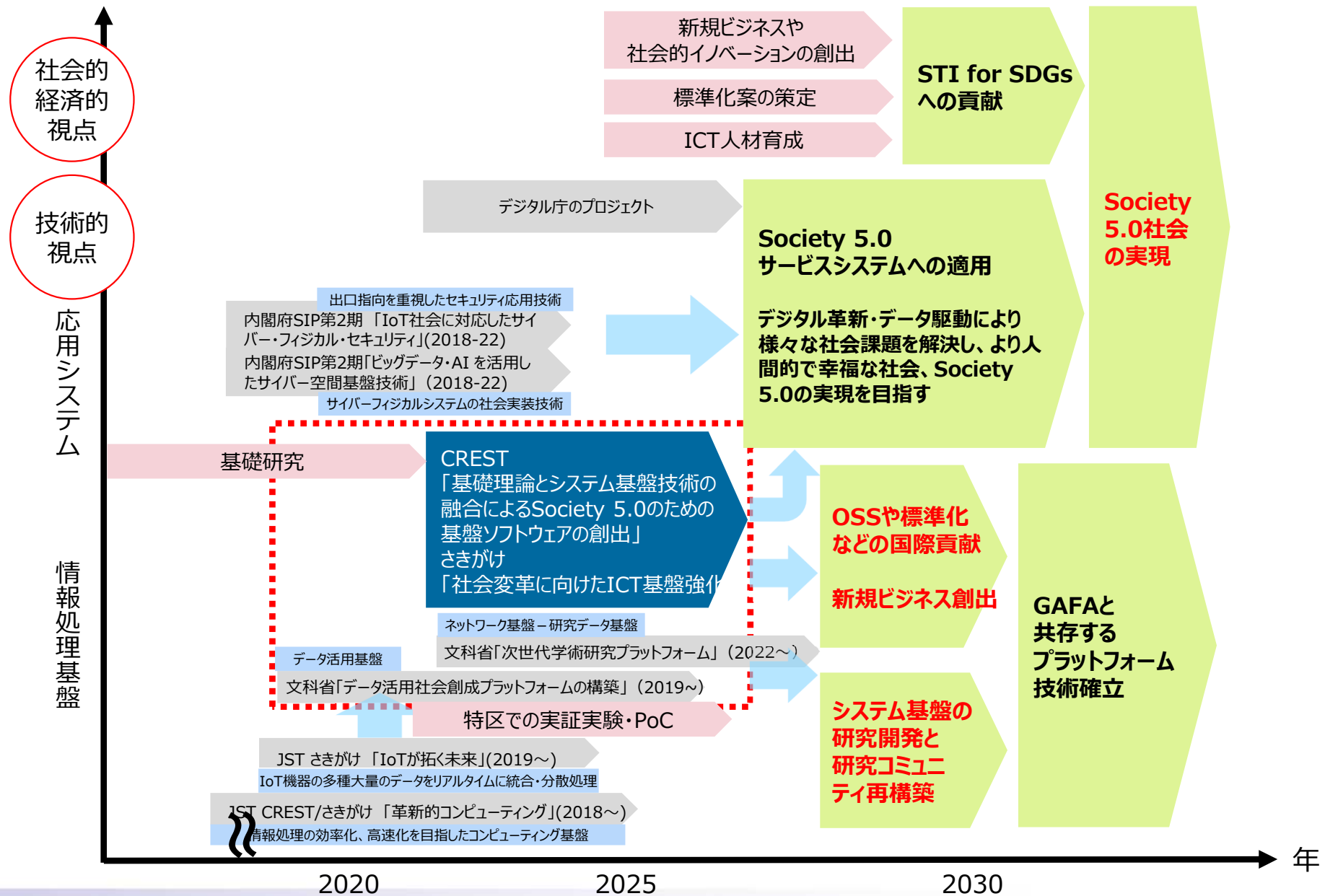
「理論×システム基盤」で安全安心なシステムソフトウェアの実現

CREST【S5基盤ソフト】研究領域の全体像

高度化・複雑化し続けるセキュリティ・プライバシー課題の解決に向けて、**アーキテクチャからOS、ソフトウェア、データベース、セキュリティ、プライバシー**の研究者が協力し、**基礎研究（理論）と応用研究（システム基盤）**を進めることで、Society 5.0時代の安心・安全・信頼を支える基盤ソフトウェア技術を実現する

	既存システム・ネットワークセキュリティ	次世代セキュリティ
脅威の前提	外部ネットワークは信頼できない	ネットワークに加え、CPUもOSも信用できない
技術	ファイヤーウォール	ゼロトラストコンピューティング (S5基盤ソフト)
	<p>従来のネットワークベースのセキュリティ ネットワークを突破された侵入済みの脅威に対して脆弱</p> <p>ネットワーク境界は容易に越えられる</p> <p>社外からのID/デバイス/データ/アプリへの攻撃に対して無防備</p> <p>ファイヤーウォール</p> <p>ネットワーク境界</p> <p>1台を乗っ取れば他のデバイスに侵入拡大</p>	<p>ゼロトラスト・ネットワーク・セキュリティ "ID"をセキュリティ境界とし、ネットワークに依存しない</p> <p>これらの信頼度に基づいて動的に認証、認可</p> <ul style="list-style-type: none"> データ: 機密情報の保護、自動的な分類・保護・追跡 アプリ: 機密情報の保護（監視）、未許可アプリ、不正な操作の監視 ID: IDの保護（クラウド&オンプレ）、なりすまし検知・防止 デバイス: デバイスの保護、PCへの侵入検知・隔離 <p>メールからの保護、標的型メールの検出と排除</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼できないCPU/システムソフトウェアでも安全なシステムを構築可能なセキュリティ技術 ・オープンな環境でもプライバシーを保障するデータ収集・解析技術 ・データの自由流通と個人情報の安全性確保を両立する技術

CREST【S5基盤ソフト】の想定ロードマップ



募集する技術領域詳細(1/2)

(1) 信頼できないハードウェアやOSを含む計算環境で安全なシステムを構築可能とするセキュリティ技術の創出

- 権限分散・階層化等による安全性指向コンピュータアーキテクチャ技術
 - ✓ トラスト空間を跨った分散協調アーキテクチャ技術
 - ✓ アーキテクチャレベルでのセキュリティ検証等
- 信頼できる隔離実行環境構築技術
 - ✓ ゼロトラストアーキテクチャに基づくセキュリティポリシーのAI自動化
 - ✓ 現在の課題を解決する次世代TEE (Trusted Execution Environment)の創出
 - ✓ ソフトウェア由来の形式検証や安全な実行環境を保証するデータの真正性確認等
- ヘテロ環境での脅威検出・データ保護を可能とする次世代データ流通基盤技術
 - ✓ 脆弱性自動評価技術、脅威検出技術
 - ✓ 環境でのデータ保護、動的情報フロー追跡技術 (DIFT)
 - ✓ 次世代高機能暗号やブロックチェーン等を用いた次世代認証・認可基盤 (次世代PKI技術、分散型アイデンティティ、分散/統合アクセス制御等)

募集する技術領域詳細(2/2)

(2) オープンな環境でもプライバシーを確保するデータ収集・解析技術の創出

- 高機能暗号を用いたプライバシー保護技術
 - ✓ 完全/準同型暗号等によるプライバシー保護データマイニングの高速化技術
- 国際的な個人情報保護法に対応可能なプライバシーポリシー管理技術
- プライバシー保護の安全性を網羅的に定義するための評価指標技術

(3) データの自由な流通と個人情報の安全性確保を両立するシステム実装技術の確立

- 上記(1)と(2)を融合した基盤技術
- セキュリティ・プライバシー処理の高性能実装技術
- データの真正性証明や来歴保証技術
- 様々な実行環境(CPU、OS、仮想化)からなる分散データ処理環境の管理・制御技術

CREST【S5基盤ソフト】領域アドバイザー

【アドバイザー一覧（青：企業関係者； 赤：女性研究者）】

氏名	所属	役職
河野 健二	慶應義塾大学 理工学部	教授
五島 正裕	国立情報学研究所 アーキテクチャ科学研究系	教授
高橋 克巳	日本電信電話(株) セキュアプラットフォーム研究所	主席研究員
寺田 雅之	(株)NTTドコモ クロステック開発部	担当部長
中野 美由紀	津田塾大学 学芸学部	教授
松井 充	三菱電機(株) 開発本部	役員技監
盛合 志帆	情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究所	所長

領域アドバイザーは順次公開予定です。

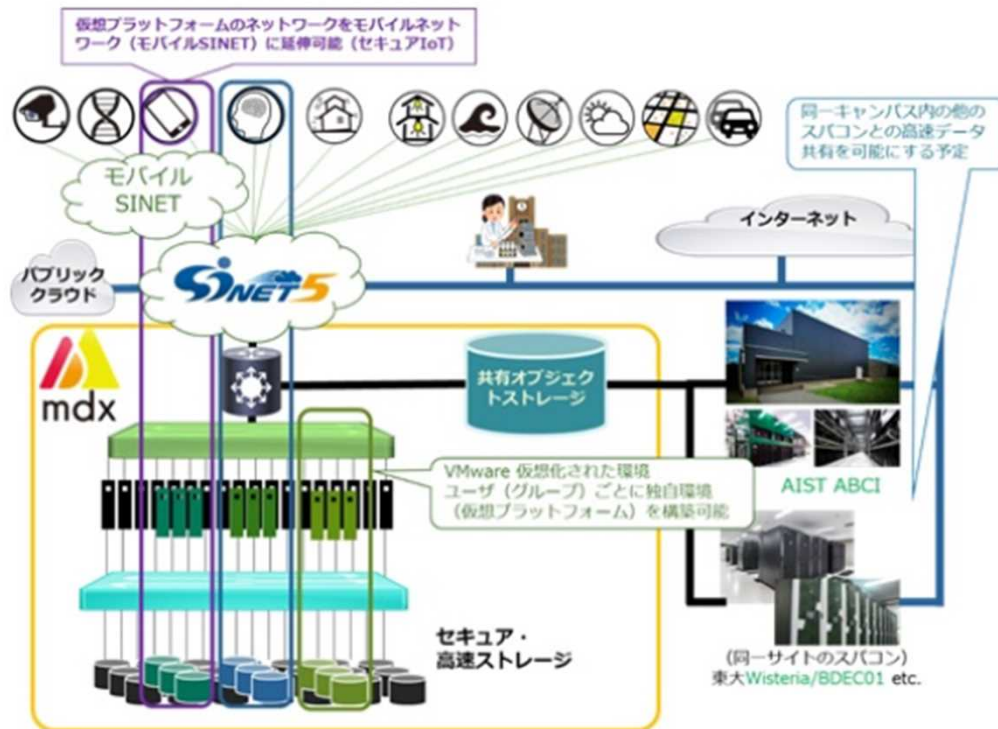
CREST【S5基盤ソフト】領域の運営方針

- ・研究成果のユースケース想定や競合技術との国際的なベンチマークの自己評価による国際競争力の向上、中間報告時点でのステアリング（予算の見直し、研究テーマの軌道修正等）を強化
- ・OSS（オープンソースソフトウェア）化やオープンなAPIの提供等による、多種多様な環境での研究成果普及を推進、本研究領域の他チームや同一戦略目標下のさきがけ研究者との連携・協調、研究成果物の相互利用の推進
- ・高性能仮想化環境として2022年度より正式運用が予定されているデータ活用社会創成プラットフォームmdx等の利活用の推進（次スライド参照）
- ・研究ビジョンの構築や研究方向性をブラッシュアップに向けたAIPラボ活動への参画、海外ショートビジットや国際連携ワークショップ等の国際連携推進

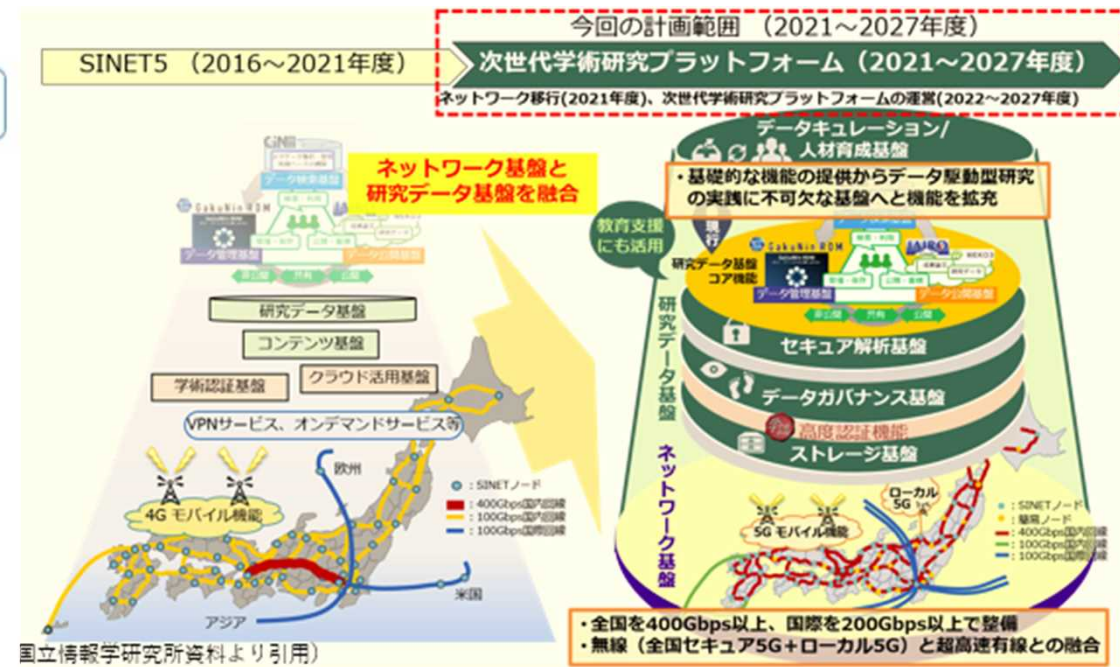


プラットフォーム利活用の例

データ活用社会創成プラットフォーム



次世代学術研究プラットフォーム



(東京大学プレスリリース2021/3/21より抜粋
https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/press/z0310_00027.html)

(第11期情報委員会の資料より抜粋
https://www.mext.go.jp/content/20210412-mxt_jyohoka01-000014099_06.pdf)

CREST【S5基盤ソフト】研究期間と研究費

- 研究期間：5.5年間（2021年10月から2027年3月末まで）
- 予算規模：総額 1.5億円～3.5億円（間接経費を除く）
- 基礎理論分野とシステム基盤技術分野を横断的に融合・統合する研究開発の推進のため1件当たりの予算規模を大型化
- 必要に応じた研究加速等の支援や、複数のチームがそれぞれの成果を相互に利用する形での連携を推進に向けた予算措置

CREST【S5基盤ソフト】採択評価の基準

- 研究課題例で示した1つの達成目標に対してのチーム構成でも、複数の達成目標に跨がる目標を立てたチーム構成でも応募可能
- 基礎理論分野とシステム基盤技術分野を横断的に融合・統合を図った研究開発提案をより高く評価
- セキュリティやプライバシーに関わる研究者だけでなく、システム・コンピュータアーキテクチャや基盤ソフトウェアの開発者、社会科学の専門家などを体制に取り込むことを推奨
- **5.5年間でのゴールの成果イメージ、3年後のマイルストーン、研究成果を実社会適用するユースケース、人材育成への取組み**を具体的に記載すること
- 大型化を希望している提案については、研究成果の実社会での適用を想定した**技術検証（Proof of Concept）の実施を研究計画**に含めること

科学技術未来戦略ワークショップ X +

← → ↻ 🏠 🔒 https://jglobal.jst.go.jp/detail?JGLOBA 133% 🔍 検索 📄 📖 🌐 🗄️ ☰

J-GLOBAL 📱 使い方 ENGLISH

🔍 すべて ✕ 同義語を見る(0)

資料 J-GLOBAL ID : 202109004036518225 JST資料番号 (フル) : N20210026K JST資料番号 : N20210026

科学技術未来戦略ワークショップ報告書 Society 5.0システムソフトウェア 令和2年

📎 クリップ

JST資料番号 : N20210026 🔍

ISBN (1件) : 978-4-88890-693-7

シリーズ・タイトル (1件) :

- CRDS-FY 2020-WR-04

資料内容種別 : 会議録, 冊子体, その他

刊行頻度 : その他

発行国 : 日本(JPN)

本文使用言語 (1件) : 日本語(JA)

出版団体名 : 科学技術振興機構研究開発戦略センターシステム・情報科学技術ユニット 🔍

JST 研究開発戦略センター

<https://www.jst.go.jp/crds/report/report05/index.html>

にて近日中に公開予定

ご清聴ありがとうございました！

多数の研究提案をお待ちしています

Q&A